

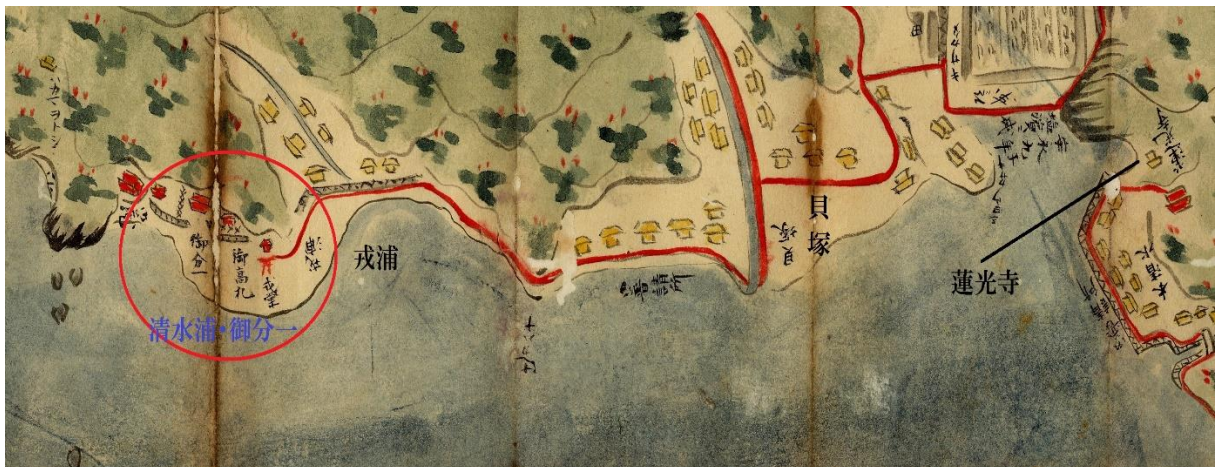
—近世・土佐藩「分一役所」の役割と配置—

「分一役」は、土佐藩浦奉行所配下で各浦分に派遣され、加俸は二人扶持を加えられた。その職務は、主に船便積出荷物、船舶や漁船の取り締まりであった。この他にも藩より漁民に融通した資金回収の任もあった。これら取り立てられた金銭や物品は、重要な藩財源の部分の部分を占めていた。また、船舶の管理については、廻船の鑑札交付、船の様式と所有者氏名・積荷の種類・輸送先等の記録事務やご禁制品の取り締まり任務があり、その職務は多岐にわたった。

現在の土佐清水市域で近世に分一役所が所在していた浦々を以下に記す。

- (1)下茅浦(下ノ加江)御分一(布浦・下茅浦を管轄)
- (2)窪津浦御分一(伊布利浦・窪津浦・津呂浦を管轄)
- (3)松尾浦御分一(伊佐浦・松尾浦を管轄)
- (4)中ノ浜浦御分一(大浜浦・中ノ浜浦を管轄)
- (5)清水浦御分一(越浦・養老浦・清水浦を管轄)
- (6)三崎浦御分一(三崎浦・益野浜・千尋窪浦を管轄)
- (7)下川口浦御分一(下川口浦※片粕は浦方に含まない)
- (8)貝ノ川浦御分一(大津浦・貝ノ川浦を管轄)

これらの浦々に駐在した浦役人(分一役)は、それぞれの任期を任地に赴任し、職務を遂行した。文化14年(1817)に『幡多日記』『万葉集古義』を著わした国学者で歌人の鹿持雅澄もかつては分一役として窪津浦に赴任したことがあった。



↑清水浦絵図(室戸市羽根・山本武雄氏所蔵)をトリミングし、加筆した。清水浦の戎浦に所在していた御分一役所、高札場も描かれている。右端に蓮光寺が見える。

五円玉を活用した社会科授業例 ー身近な教材の活用に鍵がー

昨年末から小学校で社会科の出前授業をおこなうことが多くなりました。そこで今日は、身近な教材を活用した社会科の授業例を紹介させていただきます。授業例というより授業のための素材と言った方がよいかもしれません。

教科書の記述を字面のみで暗記するだけでは、社会科の学力は真に身につかないと思います。教材や事例を通して具体的に学んでいくことが大切です。以下授業例としてそのポイントを列挙しておきます。

◇五円玉を活用し、気づくこと、思ったこと、考えたことを挙げさせる。

◇五円玉のデザインに描かれている次の①～③は

何を表しているか児童・生徒に聞く。

- ①植物は？・・・稲と麦で意見が分かれそうである。
- ②横線は？
- ③穴の周りの凹凸は？



- ・五円玉のデザインができたのは、昭和24年である。終戦から間もなくつくられた敗戦で多くの物を失った日本にとってどんな願いが込められているのだろう。
- ・描かれている①は、稲を表す。「農業」を象徴するデザインである。
- ・描かれている②は、海や川を表す。ここから魚貝類など食料が得られることから、「水産業」を象徴するデザインである。
- ・描かれている③は、凹凸の円は歯車を表し、「工業」を象徴するデザインである。
- ・敗戦を乗り越えて、各種産業を発展させ、豊かな国を建設していこうというメッセージが五円玉のデザインには込められている。

以上のように、五円玉一枚を活用し、1単位時間の授業を展開することができる。社会科学習は、その教材をいかに活用していくか、ここに重要な指導法のヒントが隠されている。五円玉に限らず、さまざまな教材を活用した授業をどんどん展開していただきたい。

特に、地域素材を具体的に活用していくことは、今後の大きな課題であり、これによって児童・生徒に「社会科で養成する学力」の定着をより図ることができる。地域を知り、地域に学び、まず教員自身が地域学の推進者になることが大切だと思う。

引用・参考文献

山崎博志「産業学習のお薦めメニュー・ベスト3」(『社会科教育 No. 538』明治図書、2004年、69-71頁)